

【ショートレター】

## 「生徒指導・進路指導論」授業における学生の自己認識の変化†

松浦 均\* \*2

三重大学教育学部学校教育講座\*

三重大学教育学部附属小学校長\*2

筆者が担当する教職の授業「生徒指導・進路指導論」ではPBL方式を採用しグループを構成して議論中心の授業を展開している。授業内容を5クールに分けて、そのクール毎に討議事項を用意し議論をしながら理解を深めていく形である。2016年度の授業から3年間に渡って、同学生の授業内容理解とグループ活動に関して自己評価の変化を調査した。その結果、いずれの年度においても概ね自己評価は有意に上昇していた。理解が深まっていく過程やグループ活動における様々な観点からの認識について学生自身が振り返る機会となり、客観的なデータとして示すことができた。

キーワード：生徒指導・進路指導, 授業, PBL方式, 自己評価,

### 1. 問題

筆者は教育学部の専任教員として、学部の教職の授業「生徒指導・進路指導論」を担当している。同授業は、2015年度までは授業名は「教師と生徒の心理」であったが、2016年度入学生から授業名称が変更された（2016年度から2019年度までは入学年次により授業名称が異なったまま同時開講している）。これは教育学部で教職課程の再課程認定の申請が行われた折りに、授業名称の変更が必要となったため、この機会にシラバスの記述も大幅に変更した。すなわち、それまでは児童生徒の心理の側面についての心理学的見地からの理論的説明をより多く取り入れていたものを、現場教師の具体的な生徒指導と進路指導の在り方の話に重点を置き、それを学生に伝えるべく内容に変更した。

本来、大学における授業としての「生徒指導」分野の理論的ベースは、教育心理学や臨床心理学である。そのなかで理論と実践の往還が重要であることは周知のことであり、教師が理論的な裏付けを知っておく必要はある。また、生徒指導提要によれば、学校で教科等として行われる活動のなかにも学習活動と生徒指導の両面の教育機能があると記され、生徒指導が授業とは別個のものではないと言及されている。大学の授業では、その点にも留意しながら生徒指導の現実を教えている。将来教師を目指す学生に対して、できる限り現場での生徒指導対応を伝えていくことは重要なことと考え、授業をしている。

現場教師にとって生徒指導対応は、授業をすること以外では、もっとも時間と労力を割く領域である。実際いじめを代表とする大小様々な児童生徒間のトラブルの対応は保護者も巻き込んで大変難しい

ことであり、また否応なく勤務時間外の対応にもなり、教師にとってもストレスフルな業務の一つとなっている。また筆者自身が2017年度より本学附属小学校長を兼務しており、在任期間中に小学校で発生した生徒指導対応案件については管理職として対応している。つまり管理職として事態解決に向けてその方針を示し、保護者の対応も行うことがある。難しい事案も多い中で、学校全体の組織的対応の重要性を改めて認識している。そのような生徒指導や進路指導が、教師が学びに来る教職大学院の主要5領域の一つにもなっていることは日々の現場を見ていると十分理解できる場所であり、生徒指導対応力は教師に求められる最重要な資質や力量であるということに異論はない。

さて、筆者の「生徒指導・進路指導論」の授業の目標は、生徒指導分野における学校、教師、児童生徒に関する様々な心理社会的問題および実際に生じる生徒指導案件について、様々な観点から見るができるようになること、また複眼的視野を持ちながら考えられるようになることとしている。そのため、授業はPBL方式（三重大学高等教育センター2011）によるグループ学習を通して行っている。教職の必修授業であるため毎年受講学生が相当数いるが、いつも初回にグループを構成し、半期の間メンバーを固定して授業を行っている。PBL方式ゆえの授業であるため、できるだけグループ討議の時間を多く確保し、自分たちで意見を出し合い、考えを深めていくことを目標の一つとしている。半期で4つ程度の授業テーマを設定し、一つのテーマにつき3週間程度を使い、それを1クールとして、課題として各クールでレポート作成を課している。

本授業は数年前までは受講学生の中心は3~4年生であったが、2016年に幼小免許用と中高免許用とで分離開設の必要性がなくなり、現在の受講学生は1~2年生中心になっている。この状況の変化も授業内容を大幅に変更するきっかけとなった。すなわち実習を終えた3~4年生にあつては児童生徒の様子など具体的なイメージが描けるのに対して、実習前の1~2年生にあつてはなかなか学校や子どもの様子をイメージすることができず、生徒指導という学校現場で教師が日々行っている業務のことはもとより、そもそも学校とは、という話から始める必要性が生じたからである。そのため授業のグループ構成は、受講学生に3~4年生がいれば、その学生をグループに1名ずつ配置し、残りは1~2年生になるように構成した。グループ討議のなかで上位学年の学生から教育実習時の様々な経験を語ってもらい、下位学年の学生からの質疑に答えられるような体制を整えるということである。

PBL方式の授業ということに関しては、各クールでの授業テーマを設定し、その領域内での議論のための討議テーマを設定している（○数字はそのクールでの討議テーマ）。2017年度以降は概ね次のように各クールを設定している。第1クール「学校運営と生徒指導」①学校の現状と教師の役割、②生徒指導の校内組織体制、③学校心理学、第2クール「児童生徒の理解の方法」④生徒理解とその問題点、⑤生徒理解の方法、第3クール「児童生徒指導の今日的課題」⑥いじめ、⑦不登校及び中途退学、⑧暴力行為及び非行、⑨校則及び懲戒と体罰、第4クール「進路指導・キャリア教育」⑩進路指導・キャリア教育の意義と内容、第5クール「学校安全」⑪防犯について、⑫防災について、である。半期でこれらの内容について、学生たちは議論を通して理解を深めていく。

以上のような趣旨と内容で半期の授業を構成し、2016年度から2018年度までの3年間は、毎年各クールでの学生の自己認識に基づいた自己評価の経時的变化について調査を行った。授業をクールの区分において進めていく過程で、授業内容の理解の深まりと各グループでの自身の行動の在り方や責任等の経時的变化を見ることが目的である。ただし、調査を行った3年間とも授業の最終回で振り返りの形で回答を得た。本稿では、その3年間の結果について報告する。

## 2. 方法

2016年度から2018年度に開講した筆者の本授業において授業最終回に記名式の質問紙調査として実施した。いずれの項目も自己認識に基づいた自己評価を尋ねているが、最終回に調査を行っているために初回時や各クール時を思い出している振り返りとなる。その時点ごとにとったデータではない。調査項目は以下の通りである。なお2016年度と2017/2018年度とでは少し質問項目に変更があるので、留意していただきたい。

### ①授業内容の理解に関する自己評価を問う項目

5段階評定10項目。初回時と最終回時の2回について自己評価を評定させた。

2017/2018年度調査の具体的な項目は、1,教職に関する興味関心 2,教師のものの見方や考え方についての理解 3,児童生徒のものの見方や考え方についての理解 4,教職を目指そうという気持ち 5,教育実習に関するモチベーション 6,「教師」の仕事に関する理解 7,「生徒指導」に関する理解 8,「進路指導」に関する理解 9,「学校安全」に関する理解 10,「学校」というものに対する理解、である。

なお、2016年度の調査では、項目8以降は、8,「学校」についての理解 9,「児童生徒」に対する理解 10,この半期の授業に対する理解、となっている。

いずれも、初回時の評定にあつては、これから受講する授業の内容について初回オリエンテーションで説明し、その時点での推測や自身の既存知識に基づく理解が評価のベースとなる。

### ②グループ活動についての自己評価を問う項目

5段階評定10項目。第1クール、第2クール、第3~5クールの3時点（2016年度調査は第4クールまでの4時点）での自己評価を評定させた。

2017/2018年度調査の具体的な項目は、1,グループ活動における自分自身の積極性 2,グループ内での自分自身の責任の認識 3,グループ内でのリーダーシップの発揮 4,グループ内コミュニケーションの活発さ 5,自分自身のコミュニケーションスキル 6,メンバーとの協調性とチームワーク 7,メンバーへの配慮や支援的な行動 8,グループ活動の改善への働きかけ 9,コメント力①（自身の発言内容） 10,コメント力②（コメント用紙の自由記述）、である。

なお、2016年度においては、項目8以降は、8,グループメンバーへの依存的な姿勢 9,グループ活動の改善への働きかけ 10,グループ活動による成果 11,コメント力①（自身の発言内容） 12,コメント力②（コメント用紙の自由記述）、である。

### 3. 結果と考察

#### 3.1 授業内容の理解についての自己評価の変化

2016年度は、受講学生70名のうち、全ての項目に回答し欠損値のなかった60名（4年0名、3年5名、2年25名、1年40名）からの回答を分析した。2017年度は受講学生66名中63名（4年2名、3年5名、2年35名、1年21名）、2018年度は受講学生58名中54名（4年1名、3年6名、2年9名、1年38名）からの回答を分析した。

いずれも初回（事前）と最終回（事後）の振り返りによる自己評価の比較であり、対応ある  $t$  検定を行った結果、いずれの年度においても全項目で有意に自己評価が上昇していた（Table1, Table2, Table3）。授業内容の理解について、おしなべて数字が上昇しているという結果はある意味当然のことであるが、具体的に数字を見ると、2016年度においては事後の数値が5段階評価で平均値が4を超える項目もいくつかあった。項目1 教職に関する興味関心、項目2 教師のものの見方や考え方についての理解、項目8 「学校」についての理解、である。また、数字の上昇が高かった項目は、上記項目2の他、項目7「生徒指導」の意味に関する理解、上記項目8、項目9「児童生徒」に対する理解、等であった。反対にそれほど上昇がなかった項目は、項目4 教職を目指そうという気持ち、項目5 教育実習に関するモチベーション、であった。この結果は筆者としては深刻に受け止めている。つまり授業内容の理解が深まるなかで、教員養成の教育学部として最も大事なポイントでもある将来教職に就くことやその動機や意思に必ずしもつながっていない学生がいるということであり、入学時において既に教職には就かないと公言する学生がそれなりにいる状況の打開にはなり得ていないとも言える結果である。率直にこの結果を受け止めて、何らかの方策を講じる必要があるといえる。

2017年度と2018年度の結果については、数字の傾向はよく似ている。項目1, 2, 3については、事後において高い数字を示してはいるが、項目5, 教育実習に関するモチベーションについては2016年度同様に高い数字ではない。2018年度においては項目4, 教職を目指そうという気持ちは絶対的には低い数字ではないが、事前事後との比較において統計的に有意な差はなかった。全体としては数字が上昇している。前述のいくつかの項目で上昇の程度は低いが、数字が上昇した項目については、事前で2点台のものが事後で3点台後半から4点を超過しており、一定の理解がなされたものと考えている。

Table.1 2016年度授業における内容理解についての自己評価の変化 n=60

授業内容についての理解に関する質問項目	初回時の自己評価		最終回時の自己評価		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
項目1. 教職に関する興味関心	3.167	0.867	4.033	0.736	-8.26 ***
項目2. 教師のものの見方や考え方についての理解	2.767	0.810	4.017	0.596	-11.87 ***
項目3. 児童生徒のものの見方や考え方についての理解	2.800	0.935	3.983	0.701	-12.26 ***
項目4. 教職を目指そうという気持ち	3.300	1.078	3.817	0.965	-4.92 ***
項目5. 教育実習に関するモチベーション	3.050	0.999	3.517	1.049	-4.57 ***
項目6. 「教師」の仕事に関する理解	2.733	0.841	3.933	0.686	-10.14 ***
項目7. 「生徒指導」に関する理解	2.733	0.880	3.949	0.729	-11.42 ***
項目8. 「学校」についての理解	2.783	0.825	4.000	0.695	-13.37 ***
項目9. 「児童生徒」に対する理解	2.883	0.865	3.898	0.662	-10.68 ***
項目10. この半期の授業に関する理解	2.683	1.157	3.966	0.742	-8.35 ***

\*\*\*  $p < .001$ 

Table.2 2017年度授業における内容理解についての自己評価の変化 n=63

授業内容についての理解に関する質問項目	初回時の自己評価		最終回時の自己評価		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
項目1. 教職に関する興味関心	3.270	0.937	4.000	0.735	-7.35 ***
項目2. 教師のものの見方や考え方についての理解	2.651	0.744	3.938	0.753	-13.53 ***
項目3. 児童生徒のものの見方や考え方についての理解	2.714	0.792	3.828	0.767	-12.21 ***
項目4. 教職を目指そうという気持ち	3.429	0.962	3.730	0.919	-2.43 **
項目5. 教育実習に関するモチベーション	2.905	0.995	3.254	0.915	-3.21 **
項目6. 「教師」の仕事に関する理解	2.578	0.686	3.859	0.753	-12.72 ***
項目7. 「生徒指導」に関する理解	2.469	0.689	3.719	0.826	-14.49 ***
項目8. 「進路指導」に関する理解	2.438	0.732	3.625	0.845	-13.38 ***
項目9. 「学校安全」に関する理解	2.219	0.745	3.714	0.812	-15.34 ***
項目10. 「学校」というものに対する理解	2.438	0.732	3.563	0.710	-14.29 ***

\*\*  $p < .05$  \*\*\*  $p < .001$ 

Table.3 2018年度授業における内容理解についての自己評価の変化 n=54

授業内容についての理解に関する質問項目	初回時の自己評価		最終回時の自己評価		t値
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
項目1. 教職に関する興味関心	3.296	0.964	4.093	0.708	-6.67 ***
項目2. 教師のものの見方や考え方についての理解	2.519	0.720	3.907	0.622	-17.12 ***
項目3. 児童生徒のものの見方や考え方についての理解	2.611	0.656	3.926	0.640	-13.89 ***
項目4. 教職を目指そうという気持ち	3.519	1.112	3.722	1.036	-1.63 ns
項目5. 教育実習に関するモチベーション	2.944	0.960	3.222	0.839	-2.39 *
項目6. 「教師」の仕事に関する理解	2.500	0.818	3.796	0.737	-12.40 ***
項目7. 「生徒指導」に関する理解	2.315	0.886	3.741	0.757	-13.24 ***
項目8. 「進路指導」に関する理解	2.222	0.883	3.481	0.795	-10.88 ***
項目9. 「学校安全」に関する理解	2.185	0.779	3.870	0.674	-17.15 ***
項目10. 「学校」というものに対する理解	2.574	0.792	3.796	0.626	-12.07 ***

\*  $p < .05$  \*\*  $p < .05$  \*\*\*  $p < .001$

### 3.2 グループ活動における各クール時点での自己評価の経時変化

PBL方式の考え方に基づいてグループを構成し、クール毎のテーマについて討議事項（その日に議論すべき課題）を設定した。1コマの授業のなかで3回程度の議論の時間（1回は8~10分）を設けた。討議事項の例として、第1クール「学校運営と生徒指導」の単元では、「生徒指導」の観点から「学校」を見ると、学校現場においてどんな問題があるか？といったものである。このような議論を重ねながら各クールをこなしていくわけだが、やっていくうちに議論がうまくなり、学生自身の見方や考え方が明確になってくることを目指した。

各クールの変化を見るために項目毎に一要因分散分析を行った。Table4, Table5, Table6に結果を示した。3年間分すべての項目において、その数字は統計的に有意な上昇が認められた。また多重比較により、どのクール間に有意差があったか示した。2016年度の結果については、項目1,5,6,7,10,12においては各クール間すべてで有意な数値の上昇が見られた。一方、項目8,9では有意な数字の上昇は見られなかった。これらは数字自体がそれほど高くはなかった。たとえば項目8については数字の上昇は考えにくいものであるし、項目9についてはグループ活動を改善していくほどの高い動機付けは見られなかったということと理解できる。

2017年度と2018年度は項目を減らして10項目にしたが、2018年度の項目3ではクール間の多重比較でいずれのクール間において有意な差はなかった。

これらの結果は、半期の間メンバーが固定され、グループ活動のやり方が学習された結果といえる。筆者は授業中机間を周りながら議論の様子を観察し、グループ活動における積極性を促し、責任を全うすることを何度も話をした。討議事項を議論する前には数分間の自分で意見を考える時間を取り、その意見を最初は順番に発言していき、その後フリーに話を進めるといったスタイルを続けてきた。そのやり方により、自分の発言時にはきちんと発言し、一方で他者の発言にはきちんと耳を傾けるという姿勢が徐々に醸成されていった。その様相がこのデータとなって現れているといえる。また授業の最後には5~10分程度自由記述のコメント用紙にコメントを書くことを毎回課し、その授業の振り返りとした。初回授業時にコメントの書き方への意識付けをしっかりと行った。自身の理解に関するメタ認知をし、

論理的な文章で書き上げることを意識するように指示し、コメント力をつけることを目標にするよう指示した。その評価についても経時的に数字が上昇している。

### 4. 課題

今回このようなデータを取ってきたが、数字の上昇をもって、授業が成功したと考えているわけではない。課題もたくさんある。一つは前述のように教職を目指すという意識の上昇があまりみられなかったことである。授業のなかで教師の仕事の大きな部分を占める生徒指導が教師のストレスになっていることや労働時間を超えての業務となっていることなど、ネガティブな形で伝わっていることが考えられる。大変さばかりが伝わるようでは、教員養成を旨とする学部教育に逆行することになる。このあたりは伝え方に検討の余地がある。また調査方法が最終回での振り返りという形では、どうしてもポジティブな評価になりがちである。データとして信頼できる部分も多いと思うが、厳しい自己評価とは言いがたい。最後に、本授業ではレポート課題を課しているが、それらや成績との関連は分析していない。学生の自己評価の信頼性や妥当性をどのように裏付けていくかということも検討課題と思われる。今回は筆者自身の「生徒指導・進路指導論」の授業に関して報告したが、紙面の都合で授業内容とデータとの関連性については言及していない。これらの点についても深く分析していく必要がある。

### 参考文献

三重大学高等教育創造開発センター（2011）『三重大学版 Problem-based Learning の手引き-多様な PBL 授業の展開-』。

† Hitoshi, Matsuura\* : Changing of Students self-awareness on the class of “Student Guidance and Career Counseling”,

\* Faculty of Education, Mie University 1577 Kurimamachiya-chou Tsushi, Mie, 514-8507 Japan

「生徒指導・進路指導論」授業における学生の自己認識の変化

Table.4 2016年度授業におけるグループ活動についての各クール時点の自己評価の経時変化 n=60

グループ活動についての質問項目	第1クール時点		第2クール時点		第3クール時点		第4クール時点		F値	多重比較
	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差		
項目1. グループ活動における自分自身の積極性	3.203	0.118	3.441	0.103	3.661	0.104	3.847	0.099	16.90 ***	1<2*, 1<3***, 1<4**, 2<3**, 2<4**
項目2. グループ内での自分自身の責任の認識	3.169	0.133	3.254	0.110	3.508	0.109	3.729	0.105	12.82 ***	1<3*, 1<4**, 2<3**, 2<4**
項目3. グループ内でのリーダーシップの発揮	2.678	0.138	2.915	0.133	3.085	0.135	3.271	0.139	12.33 ***	1<2*, 1<3**, 1<4**, 2<4**
項目4. グループ内コミュニケーションの活発さ	3.186	0.127	3.390	0.128	3.492	0.129	3.847	0.120	14.48 ***	1<4**, 2<4**, 3<4**
項目5. 自分自身のコミュニケーションスキル	3.051	0.122	3.305	0.114	3.610	0.116	3.864	0.117	26.78 ***	1<2**, 1<3**, 1<4**, 2<3**, 2<4**
項目6. メンバーとの協調性とチームワーク	3.186	0.115	3.373	0.108	3.695	0.121	3.864	0.117	21.13 ***	1<2*, 1<3**, 1<4**, 2<3**, 2<4**
項目7. メンバーへの配慮や支援的な行動	3.356	0.130	3.610	0.116	3.763	0.114	3.932	0.108	16.31 ***	1<2**, 1<3**, 1<4**, 2<3*, 2<4**
項目8. グループメンバーへの依存的な姿勢	2.729	0.120	2.915	0.126	2.932	0.134	3.034	0.153	3.17 *	ns
項目9. グループ活動の改善への働きかけ	3.000	0.126	3.102	0.118	3.186	0.122	3.373	0.145	5.09 *	ns
項目10. グループ活動による成果	3.155	0.117	3.293	0.104	3.500	0.113	3.690	0.111	12.48 **	1<2*, 1<3**, 1<4**, 2<3**, 2<4**
項目11. コメント力①(自身の発言内容)	3.119	0.121	3.390	0.113	3.593	0.111	3.831	0.111	19.04 ***	1<3**, 1<4**, 2<3*, 2<4**
項目12. コメント力②(コメント用紙の自由記述)	3.085	0.114	3.288	0.106	3.492	0.112	3.695	0.117	17.14 ***	1<2*, 1<3**, 1<4**, 2<3*, 2<4**

\*  $p < .05$  \*\*  $p < .01$  \*\*\*  $p < .001$

Table.5 2017年度授業におけるグループ活動についての各クール時点の自己評価の経時変化 n=63

グループ活動についての質問項目	第1クール時点		第2クール時点		第3～5クール時点		F値	多重比較
	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差		
項目1. グループ活動における自分自身の積極性	3.156	0.120	3.578	0.097	3.859	0.099	21.97 ***	1<2***, 1<3***, 2<3**
項目2. グループ内での自分自身の責任の認識	2.875	0.085	3.172	0.082	3.469	0.092	24.75 ***	1<2***, 1<3***, 2<3***
項目3. グループ内でのリーダーシップの発揮	2.609	0.113	2.828	0.121	3.047	0.136	16.16 ***	1<2**, 1<3***, 2<3**
項目4. グループ内コミュニケーションの活発さ	3.156	0.114	3.703	0.119	3.859	0.122	30.63 ***	1<2***, 1<3***
項目5. 自分自身のコミュニケーションスキル	3.047	0.105	3.453	0.113	3.594	0.119	20.97 ***	1<2***, 1<3***
項目6. メンバーとの協調性とチームワーク	3.281	0.106	3.641	0.093	3.844	0.095	24.28 ***	1<2***, 1<3***, 2<3**
項目7. メンバーへの配慮や支援的な行動	3.109	0.100	3.344	0.092	3.547	0.102	18.23 ***	1<2**, 1<3***, 2<3*
項目8. グループ活動の改善への働きかけ	2.766	0.106	2.906	0.099	3.125	0.112	11.43 ***	1<3***, 2<3*
項目9. コメント力①(自身の発言内容)	3.094	0.101	3.359	0.087	3.641	0.087	21.22 ***	1<2**, 1<3***, 2<3***
項目10. コメント力②(コメント用紙の自由記述)	3.094	0.106	3.250	0.102	3.344	0.095	5.86 **	1<3*

\*  $p < .05$  \*\*  $p < .01$  \*\*\*  $p < .001$

Table.6 2018年度授業におけるグループ活動についての各クール時点の自己評価の経時変化 n=54

グループ活動についての質問項目	第1クール時点		第2クール時点		第3～5クール時点		F値	多重比較
	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差	平均値	標準誤差		
項目1. グループ活動における自分自身の積極性	3.321	0.105	3.643	0.093	3.857	0.097	15.70 ***	1<2*, 1<3***, 2<3*
項目2. グループ内での自分自身の責任の認識	3.214	0.104	3.429	0.101	3.643	0.086	18.22 ***	1<2*, 1<3***, 2<3**
項目3. グループ内でのリーダーシップの発揮	2.821	0.125	2.946	0.126	3.000	0.117	3.77 *	ns
項目4. グループ内コミュニケーションの活発さ	3.250	0.140	3.589	0.129	3.839	0.119	21.67 ***	1<2***, 1<3***, 2<3*
項目5. 自分自身のコミュニケーションスキル	3.375	0.126	3.482	0.125	3.768	0.119	18.08 ***	1<3***, 2<3*
項目6. メンバーとの協調性とチームワーク	3.268	0.126	3.643	0.115	3.857	0.103	30.39 ***	1<2***, 1<3***, 2<3*
項目7. メンバーへの配慮や支援的な行動	3.286	0.119	3.446	0.117	3.714	0.116	15.97 ***	1<3***, 2<3***
項目8. グループ活動の改善への働きかけ	2.946	0.103	3.071	0.098	3.286	0.113	10.44 ***	1<3***, 2<3*
項目9. コメント力①(自身の発言内容)	3.357	0.106	3.518	0.108	3.768	0.102	15.96 ***	1<2*, 1<3***, 2<3**
項目10. コメント力②(コメント用紙の自由記述)	3.214	0.098	3.321	0.099	3.571	0.105	17.88 ***	1<3***, 2<3***

\*  $p < .05$  \*\*  $p < .01$  \*\*\*  $p < .001$